

未来は、作れる

第13期OB 川村 澄明

義塾を飛び出してもうすぐ1年、まだまだひよっこ社会人真っ盛りですが、最近の私にとって一番衝撃だったこと、それは「未来は、作れる」のだと気づいたことです。私は大学院の修士課程を修了した後、アクセンチュアに就職しましたが、就活当時は、「アクセンチュアに入社してもIT土方にしかなれない」なんて揶揄も耳にしていました。そんな中、私を待ち受けていたのは、前評判と寸分違わず、やれJavaだ、やれSQLだ、やれPythonだ、といったプログラミングのオンパレードでした（しかもなぜかJavaの講師はインド人…）。せっかく飛び級での大学院進学を認めていただいたにもかかわらず、マーケティングの「マ」の字も見ないような生活を送っているわけですが、この選択に後悔はありません。クライアントのビジネスの発展に貢献できる未来に必要な準備として、今は少しでも多くのITスキルを獲得できるよう、目の前の課題と向き合っています。



勉強中のプログラミング言語やソフトウェア達

しばらく本題から逸れてしまっていました。なぜ、私が「未来は、作れる」ことに気づいたかということ、それはすなわち、自分で計画を立て、実行することに他ならないということを知ったからです。PDCAサイクル、なんて言葉もあるくらいですから、計画を立て、実行することくらい当たり前のように意識されていて、「なんだ、それだけのことか」と思われたかもしれません。本当にそれだけのことです。例えば、「1週間で基本的なSQL文を書けるようになる」と目標を設定したとして、1週間の学習スケジュールを立て、その通りに実行して結果として1週間後にSQL文を書けるようになれば、私は、未来を作ったと見なせると考えています。ただし、その目標が、例えば、「日本にキャッシュレス文化を浸透させる」のような大規模なものになると、期間も5年、10年、と長くなり、何より自分ひとりだけの力では達成できなくなります。これを本当に実現できたら、未来を作ってる感じがしてきませんか？ 私個人の話で言えば、計画を立てる時にはいきり立つものの、実行となるとすぐに怠けてしまい、計画が台無しになることもしばしばあるのですが、未来を作っているのだ、と思えばその難しさも妙に合点がいきます。すると、自分ができないことを素直に認めた上で、じゃあどう工夫するか、という思考も働くようになりました。まだ、1週間程度の計画にせええ言ってる私は、大それた未来を作ることはできませんが、一步一步着実に、皆さんをあっと言わせられるような未来を作れるよう、精進していく所存です。